

綾瀬市社協が取り組んできた生活支援体制整備事業

- ①第二層協議体を市内全地区に設置することを目指し、まずどのようなことを決めてきたか。
- ②現在の市内の状況（第二層協議体）③綾瀬市社協が考えた「生活支援体制整備事業神輿の法則」を紹介

綾瀬市社協が取り組んできた生活支援体制整備事業

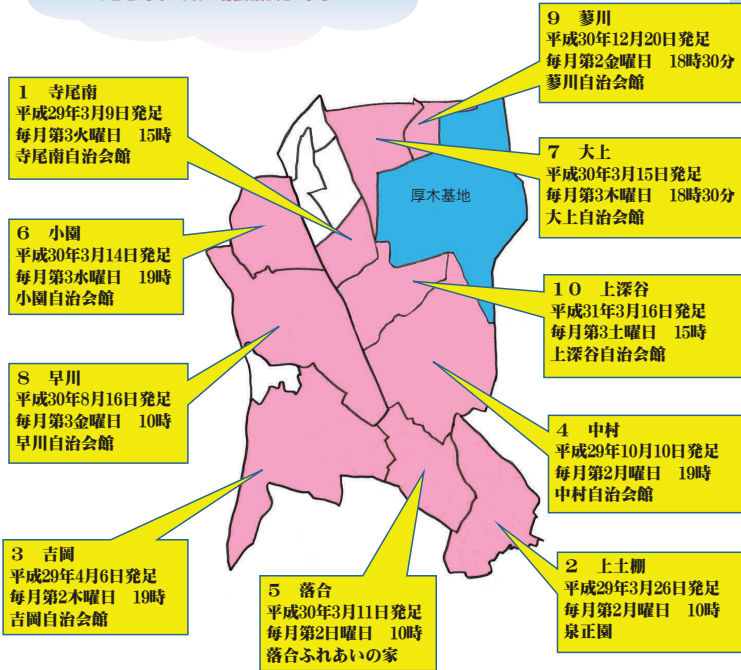
神奈川県綾瀬市(令和元年5月1日現在)
人口 84,423人
世帯 34,843世帯
高齢化率 27.01%
面積の18%強が在日米軍と海上自衛隊の厚木基地になっている。
2020年に東名高速綾瀬IC(スマートインターチェンジ)開設予定
工業地帯が4つあり、中心産業となっている。
緑豊かな田園風景も多く有り、ホタルも飛び交う地域がある。
電車の乗り入れがなく、神奈川県で唯一の「駅のない市」とである。

市社協 VS 地区社協
→ この状況は避けなかった
委託者の丸投げ、地域包括の無関心
→ そんな状況を作りたくなかった
→プロジェクトチームの編成
リーダーは行政！社協は事務局(裏方に徹する)

第二層協議体？よくわからない名前だ・・・
親しみやすく、活動をイメージしやすい名称がいい
→「ささえあい井戸端会議」にしよう！

平成28年5月に
綾瀬市社協が受託

圏域設定をどうする？
第二層協議体の想定圏域
→中学校区
綾瀬の中学校区5校
民生委員エリア6地区
地域包括エリア4地区
綾瀬の日常生活圏域は14地区の自治会が主導している。
お殿様(自治会長)が14人→隣接する地域で同盟は組めない
→14地区のささえあい井戸端会議を設置しよう



ささえあい井戸端会議の話題

- ・地区内の社会資源の把握が必要
- ・免許返納後、買い物や通院手段が無くなることへの懸念
- ・ひきこもり高齢者の発掘と集いの場の必要性
- ・通学路の見守りをお願いできないか(学校より)
- ・引きこもり高齢者の外出のきっかけ作り
- ・高齢者のゴミ捨て問題

こんな活動に発展しました。

- ・買い物支援活動の試行運行の実施
- ・通学時見守り活動の実施
- ・ニーズ調査を実施
- ・ひとり暮らし高齢者を自治会運動会に招待

1 従来の神輿(活動)

今までの神輿は、国が設計し、行政や社協が制作して、担ぎ手(地域住民や団体、施設)を募ってきました。しかしそれは、神輿(活動)の大きさや重さ、担ぎ手の人数や実情、デザインが必ずしも釣り合っていないため、上手く担げない状況がありました。

2 地域には地域にあった神輿(活動)が必要

行政や社協が作った神輿(活動)を担ぎましょう(やりましょう)。と言われても大きさや重さが釣り合っていないと担ぎ難い。また、地域には神輿(活動)の材料(社会資源)が豊富に有り、担ぎ手(地域住民や団体、施設)が大勢いるもの、地域に合った神輿(活動)の設計図が描けていない。担ぎたいけど、どこに行けば良いかわからないという状況があります。

3 神輿(活動)には魂(ニーズ)が必要

立派な神輿(活動)があっても魂(困りごとや思い。これを「ニーズ」と呼びます。)が宿っていないと神輿(活動)とは言えません。地域には様々な魂(ニーズ)があります。神輿(活動)に乗せる魂(ニーズ)を探しましょう。

4 神輿(活動)を設計し、材料を集め、組み立てる

神輿(活動)の設計図(目指す地域の理想像)を作りましょう。それができたら材料(社会資源)を集め、神輿(活動)を作ります。この作業が「ささえあい井戸端会議」なのです。

5 神輿(活動)を担ぐ(行う)

誰が担げばうまく動きますか？神輿(活動)は一人では担げません。担ぎ手(地域住民や団体、施設)は地域にたくさんいませんか？それを振り起こすのも「ささえあい井戸端会議」の役割です。

6 神輿(活動)は地域実情で速度(時間)が違う

神輿(活動)をゆっくり進める場合もあれば、街を駆け抜ける山車(活動)もあります。魂(ニーズ)を送り届ける速度(解決の時間)の違いはあっても、担ぐ目的は祭りを盛り上げよう(解決に向けて取り組んでいこう)とするものには変わりありません。

7 魂(ニーズ)の数だけ神輿がある

魂(ニーズ)が違えば、神輿(活動)も変わります。担ぎ手(地域住民や団体、施設)が子供の子供神輿であったり、車輪がついた山車であったりするかもしれません。障害がある人も担ぎたい。車いすの人も山車を引いてみたいと言えば、それによって神輿(活動)や山車の形も変わります。

8 祭り(生活支援体制整備事業)が開催される

たくさんの神輿(活動)が練り歩き(行われ)活気ある声がかんえれば、住民もたくさん集まってきます。地域に無関心だった人が喚起されるかもしれませんし、自分も担いでみたいと思う人も出てくるでしょう。地域では設計が困難であったり、材料費が高額になる神輿があるかもしれません。そのときは、やはり行政が大きな神輿を作り、時には住民の力を借りて担がなければならないかもしれません。「こんな神輿が必要だよ」という声をあげるのは住民の皆さんで、その声を受け止めるのが行政であり、設計図を描き、神輿を作るのが「第1層協議体」なのです。さあ、祭りを盛り上げましょう！

綾瀬市社協作成
生活支援体制整備事業
「神輿」の法則

